

6月20日 いじめ根絶集会

「美しいことば」、「私」そして「あなた」

40年ぐらい前、私が小学生の頃からいじめ根絶集会というものがあっていました。しかし、子どもの世界でも大人の世界でも、学校でも職場でもいじめが根絶しないのは何故でしょうか。

私には二つ上の姉がいます。小学校の頃から成績が良くて、体育だけ3でその他はオール5。私は全く逆で、体育だけ5でその他は3、たまに4、音楽は2でした。姉がいつも100点を取ってくるんですね。その横で私がそっと70点ぐらいのテストを親に見せるときの気まずさといったら子どもながらにたまりませんでしたね。結構試験をくしゃくしゃにして草むらに捨てて帰ってました。通信簿をもらう日は、翌日から休みなので嬉しいはずなのに、また姉と比較されるなと思うととても憂鬱な日でしたね。

ここに6種類のコップ（白色紙コップ、オレンジと白のストライプの紙コップ、検査用カップ、透明のガラスコップ、琉球グラスなど）があります。皆さん、このコップに優劣をつけてみてください。難しいでしょう。何故難しいか。これらのコップには優劣はないんですね。形、素材、色、大きさはそれぞれで、それぞれのコップの良さや味があり、使う場面も違います。それに「優劣をつけろ」と言われても無理だし、意味もないんですね。人間も同じです。それぞれに良さがあり味があり、個性があるんです。そこに優劣がつけられますか。お父さんやお母さんと皆さんは違うんです。きょうだいと皆さんも違うんです。クラスメイトとチームメイトとも違う、かけがえのない自分なんです。自分と他人を比較することには何の意味もないんです。

人やモノがもともと備わっている良さとか好ましい感じを「品」と言います。「品」という感じはある漢字が3つくっついてできてますね。そうです「口」です。それでは、私たちが「口」から発するものは何ですか。「ことば」ですね。ということは、日ごろ発する「ことば」によって知らず知らずのうちに私たちには「品」が備わっていくんです。

ここに水が入ったAとBのペットボトルがあります。Aのペットボトルに「ありがとう、愛、平和、友情、調和、思い遣り」といったことばをかけ続けます。一方Bのペットボトルには「ばかやろう、悪口、いじめ、悪魔、戦争、破壊」といったことばをかけ続けます。そうすると、AとBに入っている水はどうなるのでしょうか。Aの水は腐りにくく、Bの水はすぐに腐るらしいんです。何故Aの水は腐りにくいのかというと、美しいことばを浴びたAの水は雪のような美しい結晶をみせるらしいんです。Bの水は美しい結晶にならない。水でさえ美と醜を聞き分けて敏感に反応するんですね。植物や農作物にも「きれいに咲けよ」とか「元気に成長しろよ」などと優しい言葉かけをしてやると成長がよく、美しい花を咲かせ、実りもいと聞いたことがあります。

人間の体は60%ぐらいは水でできています。ということは、日頃からきれいなことばをたくさん浴び、自分もきれいなことばを口にしていく人は、心身とも健やかになるということです。一方、醜い言葉をたくさん浴び、口汚い人は身体が衰え、感情も砂漠のように乾いて、心も次第にすさんでいくということでしょう。メールやラインで発することばもまた同じです。「きれいな心」から発せられる「美しいことば」を使える人でありたいものです。

柴田トヨさんという詩人を知っていますか。5年ぐらい前にお亡くなりになっていますが、90歳から詩を書き始められ、100歳ぐらいまで詩作を続けていらっしやいました。日常の喜怒哀楽を素直なことばで表現されているので人々の心を打ち、その詩集は160万部のベストセラーになっています。その中に「ことば」という詩があります。

ことば

何気なく 言ったことばが
人を どれほど傷つけていたか
後になって 気づくことがある
そんな時
私はいそいでその人の心の中を訪ね
ごめんなさいと言いながら
消しゴムとエンピツで
ことばを修正していく

私は50歳過ぎても、「言い過ぎたな」とか「傷つけたか」と思うことはしょっちゅうです。この詩には心から共感します。

売り言葉に買い言葉と言います。「ばかやろう」と言うと「何だこのやろう」と返ってくる。「ありがとう」と言うと「どういたしまして」と返ってくる。ことばというのは、こちらが投げたように、こだまのように返ってくるんですね。金子みすゞさんという詩人に「こだまでしょうか」という詩があります。

こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。
「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていう。

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていう。

そして、あとで

さみしくなって

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう

こだまでしょうか、

いいえ、誰でも。

(中 略)

今から美味しそうな写真(ラーメン、うどん、ちゃんぽん、そうめん)を見せます。今、どれを食べたいですか、一つ手を挙げてください。そうですね。ラーメンを食べたい人もいれば、そうめんを食べたい人もいます。好みも人それぞれなんですよ。何かに対して全員が「いいね」「いいね」「いいね」「いいね」「いいね」「いいね」っておかしくないですか。「いいね」「僕はいまいち」「私はまあまあ」「私は好きよ」「僕はこっちの方がいい」、これが自然な反応ですよ。みんな違うんです。先ほどの6種類のコップを思い出してください。そこに優劣なんてないんですよ。みんな違ってみんないいんです。金子みすゞさんに「私と小鳥と鈴と」という詩があります。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても

お空はちっとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のように

地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすっても、

きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

(中 略)

今、人生100年時代と言われています。みんなはこれから長い人生を生きていくことになります。その中で、浮きもあれば沈みもあります。1日の中でも気分が高まることもあれば、落ち込むこともあるんです。それでは、今日の私の話を、柴田トヨさんの詩集のタイトルにもなっている「くじけないで」という詩で終わりたいと思います。

くじけないで

ねえ 不幸だなんて

溜息をつかないで

陽射しやそよ風は

えこひいきしない

夢は 平等に見られるのよ

私 辛いことが

あったけれど

生きていてよかった

あなたもくじけずに